

## 第 5 回ワークショップについて

2月5日(火)に行われた第5回ワークショップでは、前半に現段階の中小企業・小規模企業振興計画の基本理念やビジョン、施策(案)について、**不足している取り組みや頑張る企業として今後取り組んでみたい施策**を検討いただきました。

「**今の施策(案)について、不足している取り組み**」について出された意見を、5つの支援施策ごとに分類すると、下記のようにになりました。

### 支援施策1：町内で働く担い手づくり

人材に関する意見としては、大きく分けると「事業所自身の人材の確保と育成」に関する意見と、「事業所の企業活動を支援する為の人材」の2つに分けられます。

前者については、直接企業の案件に携わってもらう、あるいは職業体験の開催など、経験や体験のプロセスを重視した人材確保の手法に関する施策が多く挙げられました。

後者については、事業展開のための連携の促進役であるコーディネーターの設置(探す必要性、育成の必要性)と、自社の取り組みに対して提案をおこなえるプロフェッショナルな人材の確保が意見として挙げられました。

また、人材に関連して、働く場の環境整備(社内の環境や外国人労働者の労働環境(住居含む))に関する施策の必要性が挙げられました。

#### ■人材の確保と育成

- ・人材育成システムの構築
- ・事業所の人材を育成するための育成者の育成
- ・コーディネーターやプロジェクトマネージャー等の「プロ人材」の確保
- ・コーディネーターではなく商品プロデューサーを確保または育成

⇒【検討点】

- ・ **人材育成のシステムに関わる支援施策。**
- ・ **コーディネーターやプロジェクトマネージャーなどの企業支援に関わる人材確保の意見が多く挙がっており、それぞれの位置づけをどのように明確化するか。**

#### ■職業体験

- ・広陵町での「生活」や「働く」を体験できる制度
- ・大人を対象とした職業体験

⇒【検討点】

- ・ **小学生～大学生だけではなく世代を広げた職業体験の支援制度。**
- ・ **移住者を対象とした制度についてどのように明確化するか。**

#### ■環境整備

- ・働く環境支援(就業環境や女性を対象としたもの)
- ・外国語労働者の「住む・働く」に関わる環境整備の明確化

⇒【検討点】

- ・ **外国人労働者への「住む」に対する支援策。**

■各機関との連携

- ・ハローワークとの連携を強化
- ・学生とコラボした課題解決システム

⇒ **・ハローワークとの具体的な連携方法**

- ・事例紹介にあったような企業×学生のマッチング機会をどのように反映させるのか。

■その他

- ・起業・創業支援
- ・町内在住で町内企業に勤務する人を対象にインセンティブを与える  
(→「住民税補助」等の意見が挙がった)
- ・SNS での情報発信

支援施策 2：経営基盤の強化

---

特に多かったのは、自社の経営に関する相談役(経営コンサルや外部のスーパーバイザー、デザイナー)を設置する際の補助に関する意見でした。

また、経営塾のような、経営者の意識改革の場の創設についても意見が挙がりました。

■企業の現状分析や経営に関する支援

- ・自社企業の分析（支援）
- ・事業者の意識改革
- ・簡易経営・資金繰り簡易診断
- ・経営計画の作成と発信
- ・継業支援（廃業を減らし技術を継承）
- ・マーケティング、ターゲティング、ブランディング、PR 支援

⇒ 【検討点】

- ・企業の現状分析に関わる施策をどのように反映していくのか。

■その他

- ・共同研究開発、共同仕入れを推進
- ・国の補助金に対するコンサルの手配

■質問

- ・「総合支援アドバイザー」は何をするのか

### 支援施策3：地域間連携の強化

---

地域間連携については、連携によるイノベーションの視点が不足しているという意見が挙げられました。具体的には、各事業所が持つ強みや特徴をうまく融合させて、新しい価値を生み出す為の仕組み作りが必要という意見が挙がりました。  
また、連携する為の場づくりの必要性についても意見が挙がりました。

- ・産学官金のそれぞれが有する資金を持ち寄り新たな技術の導入  
(新商品開発が、販路開拓を生む仕組みをつくるため)
- ・アイデアハッカソン(アイデアを持ち寄り、夢を語る場)
- ・産学官金の交流できる場を作る
- ・学生や教授との関わりをもち、自社製品などを紹介してもらう

⇒【検討点】

- ・**交流の場の創出に関わる施策を、上記の意見を参考に反映していくこと。**
- ・**企業の強みや特徴を活かした商品開発や技術革新といった視点の企業間連携に関わる施策を検討すべき。**

### 支援施策4：ブランド力の強化

---

ブランディングのためには、各企業の意識改革とともに、見せ方などを外部人材の活用によりおこなう仕組みづくりの必要性が挙げられました。  
また、既存のブランディング施策(かぐやちゃん)を活用する案も挙げられました。

- ・自社≒地域の意識をつくる
- ・広陵町ブランド認定制度
- ・かぐやちゃんの活用
- ・「地域ブランディング」には多少なりとも専門家の知見・指導があるほうが効率的。  
また、「デザイン」の重要性は強調すべき。「見せ方」が大事。

⇒【検討点】

- ・**ブランディングに特化した人材確保に関わる施策。**
- ・**既存の施策をいかに活用していくか。**

## 支援施策 5：情報発信の強化

---

情報の発信については、各グループで情報発信に関連する意見が挙げられました。  
情報発信の方法としては、時代に合わせた発信媒体への対応(冊子ではなく SNS を活用する)が必要という意見が挙げられ、産業観光を使った発信方法もアイデアとして挙げられました。

- ・ ネット（SNS）による情報発信
- ・ テレビなどのメディア媒体の活用
- ・ 工場見学の産業観光化
- ・ 外国語対応の行政サービス
- ・ 冊子は誰も読まないのではないか

⇒【検討点】

- ・ **SNS を活用した情報発信の強化。**

ワークショップの後半では、「**がんばる企業として、今後取り組んでみたい施策**」について、意見を挙げていただきました。

ここで挙げられた意見については、施策（案）の検討材料とするとともに、計画策定後に開催予定の課題別小委員会にも活用していきます。

### ■ 事業継承支援

- ・ 事業継承 100 年起業プロジェクト
- ・ 「アトツギ」応援プロジェクト（後継者同士の交流、モチベーション向上）

### ■ 教育機関との連携

- ・ 畿央大学の開放（企業と住民との関わりを持つため）
- ・ 「まちゼミ」の開催による町内商店の活性化
- ・ 「つくってほしい」「つくらせてほしい」をつなぐプロジェクト（産学官金が交流する場）

### ■ ブランディングの推進

- ・ 靴下の産地を残そうプロジェクト
- ・ 町内商品を販売する場の開設
- ・ 有償の「ブランディング講座」を開き、やる気のある企業を引っ張り上げる支援

### ■ その他分野の研究会

- ・ 学生（青年）社会研究会
- ・ 高齢社会研究会
- ・ ふるさと納税プロジェクトチーム

## ■ 観光政策の推進

- ・シニア世代による農家レストラン
- ・民泊事業の推進（域外とのつながりを持つため）
- ・竹を資源とした観光政策の推進

## ■ 地域内経済の活性化

- ・地域商社の設立⇒広陵町内の企業が儲ける仕組みを確立